見解

# 北東アジアの平和と非核化を実現させよう

牧嶋とよ子（座間市民ネット／NPO法人ピースデポ理事）

朝鮮戦争は停戦状態のまま65年の歳月が経過しました。北朝鮮は、中国の軍事力強化や米韓演習など挑発行為に対抗し、イラク戦争が始まった2003年頃から本格的に核・ミサイル開発を進めてきました。30年間も続く米韓演習では、横須賀の空母艦載機やミサイル防衛搭載のイージス艦がその中心を担っており、軍事的緊張を高めることに加担してきた神奈川の基地の存在こそを問わなければなりません。

朝鮮半島は、大きな歴史的転換期を迎えようとしています。その始まりは　韓国の民衆が選んだ文在寅大統領の誕生でした。4月27日の板門店宣言では、南北両首脳が、自らが生きる地を戦場にしないと合意しました。朝鮮半島非核兵器地帯を設立するという意思表示でもあります。

また、6月12日、史上初の米朝首脳会談が行われ、米朝共同声明の合意文書のなかで、特に「朝鮮半島の永遠的かつ安定的な平和体制の構築に共同で尽力すること。朝鮮半島の完全な非核化に向け努力すること」を明らかにしました。この意味は大きく、長年、敵対関係にあった両国にとって歴史が大きく動いたことになります。

首脳会談の宣言・合意を履行させ、さらには日本の核依存、安保・軍事政策をも転換させなければなりません。さらに、北東アジアの平和を揺るぎ無いものとしていくために、非核兵器地帯構想を具現化していく世論形成進め、市民社会の役割を果たしていきます。

宮前地域のうごき

# 都市農業の課題を考える

大西いづみ（ネット宮前）

川崎市では都市化が進み、市街化調整区域内農地の70％が生産緑地に指定されています。生産緑地法の改正により一律500㎡だった面積要件が緩和され、直売所や農家レストランの設置が可能となり、今年度2・9haの申請が上がっています。しかし、都市農業では砂埃や臭いの苦情が近隣から出るため、ハウス栽培を増やさざるを得なくなり、規模の縮小や高齢化、後継者不足など、川崎市が行った農業実態調査からも課題が見えています。

都市農地は環境保全や景観形成、防災、生物多様性の観点からも重要です。宮前ネット事務所では、生活クラブ組合員が生産者の農地の一部を借り、有機栽培した新鮮野菜を週1回販売しています。野菜を楽しみに買いに来てくれる市民に販売を通じて都市農業への理解を深めています。

消費者と生産者が同じ地域に暮らし、お互いの顔の見える関係があることは大きな財産です。都市農業がもっと元気になるように、これからも連携を続けていきます。

NPOメール No.90

NPO法人やまとCAPひまわり

# 子どもの「安心・自信・安全」が守られる環境を地域でつくる

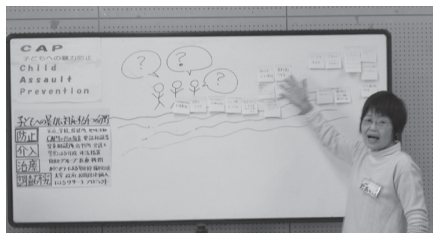
理事長　竹川竹代

来年、日本が国連子ども権利条約を批准して（1994年）25年を迎えます。子どもの人口の割合は、12・3％。2016年度の18才までの自殺者数320人、虐待死は84人と子どもの痛ましい事件に胸痛む毎日です。

CAPとは、child assault prevention（子どもへの暴力防止）という意味です。CAPプログラムは、「教職員ワークショップ」「保護者ワークショップ」の2つのおとなワークショップと、子どもワークショップがあります。（子どもワークショップは、おとなワークショップの実施が必要です）

ワークショップ後の子どもたちの感想は、①「安心、自信、自由」を初めて知りました。それを持っている時は幸せ、取られると悲しい気持ちになる。「自由」があることが大事②自信が出る時は、「失敗しても、大丈夫だよ」と言って貰えた時。「応援する時、応援をしてもらった時」③権利を取られそうになったら、相談しても良いことがわかった。今度は「いやだ」と言う④逃げる方法が具体的にわかった…などあります。

おとなワークショップでは、子どもの意見を伝え、子どもの安心・安全な環境につなげています。先日、地域向けのおとなワークショップで、「パトロールの人がいるところまでは安心だけど、自分の家は遠いので、家に着くまでが少し怖い」とお伝えしたところ、下校パトロールに活かされました。また、先生から、CAPを受けて1ヵ月後に性暴力の相談がありました等の報告があります。子どもの安心な環境は、家庭・学校・地域の大人が一体となって支えていくことが、考え方の基です。すべての子どもたちが自分の気持ちやSOSが発信でき、「自分は大切な存在なんだ」と思える環境づくりのために、実施時間、実施料金、スタッフの世代継続など課題は多くありますが、地道に拡げていきたいと思います。そのひとつとして、神奈川のCAPグループ（5団体）が共同して、CAP月間として9月～11月に、各地域でおとなワークショップを開催します。




神奈川ネット2018サマースクール

## ● 市民による人間の安全保障研究会　学習会

北東アジアにおける紛争の予防や解決に関係する協調的な地域づくりについて学ぶ3回の連続講座がスタートしました。7月5日に開催した第1回「朝鮮半島を取り巻く課題～これまでとこれから～」に続き、下記の学習会を開催します。ぜひ、ご参加ください。

◀講師の湯浅一郎NPO法人ピースデポ共同代表
▼山中悦子同共同代表

**第2回　市民社会が構想する北東アジア安全保障の枠組み**
日時：7月27日(金)18:00～20:00

**第3回　朝鮮半島と米軍基地**
日時：8月17日(金)18:00～20:00

講師：湯浅一郎さん(NPO法人ピースデポ共同代表)
場所：神奈川ネット 3F 会議室
【問合せ】TEL：045–651–2011 FAX：045–651–2081

## ● かながわ「共に生きる」 学習会

7月3日

# 朝鮮と日本の架け橋になる

**ビビンバネットと連携して「朝鮮学校訪問ツアー」を実施**

横浜朝鮮初級学校を訪問し、授業参観や意見交換など、子どもたちとの交流を深めました。大きな変化の時を迎えた朝鮮半島の情勢もあり、「初めて朝鮮学校を訪問しました」という人を含め、おおぜいの参加がありました。

補助金打ち切りにより厳しい学校運営が続きます。「朝鮮と日本の架け橋になる」という子どもたちのメッセージに応え、今年度のかながわ「共に生きる」学習会は、神奈川県へのヒアリングや映画の上映などに取組んでいきます。

**神奈川ネットは、地域政党です。**
**生活の課題は政治に直結しています。**
**国の政党が、地方の政治までコントロールするのではなく多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。**

それって、政治だよ。

## 今月の神奈川ネット

■市民の生活・活動法律相談：7/18(水)■原発事故による甲状腺ガンについて子どもたちへの影響を考える学習会：7/19（木）■政務活動費市民公開、第5回運営委員会：7/24(火)■第2回「市民社会が構想する北東アジア安全保障の枠組み」：7/27(金)

## 編集後記

衆議院は5日、市町村などが手掛ける水道事業を広域化する水道法改正案を与党などの賛成多数で可決した。広域化や民間企業の参入を促すことで経営を効率化し、水道管の老朽化対策などを急ぐとしている▼しかし、パリ・ベルリン・アトランタ等、先進国で水道を民営化した例では料金の高騰等の問題が続出し、市民の怒りを呼び再公営化している▼上下水道は、日々の暮らしを支える重要なインフラだ。水道事業を維持することは、その地域を維持することでもある。拙速な改正は地域を壊すことにつながる。（C・M）